

国立大学法人 鹿児島大学工学部

■在籍数 1943人(2022年8月1日現在)

■学 科

- ・先進工学科 [定員385人]
 - 海洋土木工学プログラム 機械工学プログラム
 - 電気電子工学プログラム 化学工学プログラム
 - 化学生命工学プログラム 情報・生体工学プログラム
- ・建築学科 [定員55人]
 - 建築学プログラム



学校の特徴

2学科で組織する工学部。高度な専門職業人の養成教育において、一人ひとりの学生が自ら向上心をもって主体的に学修し、困難に立ち向かう「自主自立と進取の精神を有する学士」の育成を目指している。

このうち、先進工学科の海洋土木工学プログラムでは、陸上を含む沿岸域を対象に海洋環境の基盤整備や保全を目的とする研究・教育を実施。具体的には、環境システム工学分野と建設システム工学分野に分かれ、日々研究活動を行っている。

地域特性を踏まえた専門技術者の育成・輩出や市民に対する土木関連情報の提供に加え、産学官連携の取り組みにも積極的に参画。地域産業の発展と安全安心な地域づくりに寄与している。

今日は鹿児島大学の4人です

輝け若人

私の実家は熊本県で、2016年に発生した熊本地震を経験しました。この時、全てのライフラインが止まり、インフラ構造物も甚大な被害を受け、当たり前の生活ができなくなりました。

この経験から「地震にも負けない後世に残るような構造物を造りたい」という夢が土木を志したきっかけです。

大学入学後、土木工学を学ぶ中で「持続可能なまちづくり」に興味を持ちました。防災対策もその一つですが、インフラ施設の老朽化が喫緊の課題であること、まちを持続させるためにはインフラの維持が重要なことを学び、土木技術者の使命と魅力を再確認しました。

卒業後、より専門性を高め、将来は社会に貢献できる技術者になることを目標に大学院に進学しました。建設材料研究室に在籍し、現在は修士論文の研究に取り組みんでいます。

後世に残る構造物を



鹿児島大学大学院 理工学研究科 2年 工学専攻 海洋土木工学プログラム 藤本 裕二さん

使用材料の改善による構造物の延命化を目指し、塩害対策用混和材

による耐久性改善効果の定量的な把握と耐久性照査手法を構築させ

ることを目的に実験に励んでいます。

研究を通じて課題を解決した時の喜びを感じ、また、研究室の仲間との大切さを実感しています。生涯の友となることでしょうか。充実した毎日に満足するとともに海洋土木工学プログラムで学べたことに感謝しています。

モットーは「挫折することなく、何事にも最後までやり遂げる」とです。修了後は大手ゼネコンで働きます。挑戦の歩みを止めることなく、みんなが幸せに暮らせるような未来のインフラを創造していきたいです。

建設ディレクター育成コースが修了

修了した受講者7人、学びの成果を生かした建設業での活躍に期待が高まる＝鹿児島市の県建設センター



成果胸に 建設業振興基金 7人が活躍誓う

建設業振興基金が就職氷河期世代(35〜54歳)を対象に開講していた建設ディレクター育成コースの修了式が3日、鹿児島市の県建設センターであった。受講者7人が学びの成果を胸に今後の活躍を誓った。

厚生労働省が進める短期資格等習得コース事業の一分野として、同基金が受託。オンラインも活用しながら全20日間にわたって、同基金の内田敏之審議役が「ぜひ建設業に入職して『誰も志す魅力ある業界』となるよう、発展に貢献してほしい」と期待。新井理事(京都サンダー社長、京都市)も「建設業は社会・インフラを守る大きな産業。この職域は必ず世の中に必要とされる仕事であり、学んだ知識を就職活動に生かしてほしい」と言葉を寄せた。

修了証・認定証を手にした7人は今後の決意も表明。受講期間を振り返るとともに、それぞれが描く夢・目標などを語った。



JR東日本 電柱建替用車両を開発

JR東日本は、新幹線の高架橋上のコンクリート製電柱の地震対策で、鋼管柱への取り替えをスピードアップするため、「電柱建替用車両」を開発した。

電柱建替用車両は4両編成で、①バケットに作業員を乗せて電線や金具の取り外しや取り付け作業を行う「高所作業車」②トロッコ線などを支持している金具を仮受けする「装柱作業車」③クレーンを使って既設柱を引き抜き、鋼管柱を建植する「電柱建植車」④新設する鋼管柱と、撤去したコンクリート柱を運ぶ「電柱運搬車」で構成。

電線などの撤去や、トロッコ線の仮受け、柱の交換、電線などの復旧まで

の一連の作業を行う。従来は高架下にクレーン車を配置して施工していたため、手続や作業の準備に時間を要していた。同車両を使うことで、高架下の条件にかかわらず施工でき、地震対策をスピードアップする。今後、同社では車両を3編成増やすこととしている。

祝国宝 霧島神宮駅前河川美化 地元建設業らが貢献

国宝に指定された霧島神宮は霧島の象徴。地元の建設業者など4社が1日、霧島市の霧島神宮駅前河川美化活動を実施した。写真。社員ら43人が参加して、同駅前を流れる狩川で草払いに汗を流した。

参加企業は、吉村工業(吉村敏社長)、窪田工務店(窪田功司社長)、大幸建設(浦野大作社長)、ニシタ電器(西田広毅社長)。

この日は駅に集合。作業上の注意や熱中症対策などを確認後、早速作業を開始。重機を導入し、河川内約150mをきれいに草払いした。持ち出した雑草は前田産業が無償で受け入れた。

また7日(午前11時〜午後4時)には「TANABATA in 霧島神宮」が同場所で開催される予定で、来訪者が気持ちよく楽しめる環境整備にもつながった。

吉村工業と窪田工務店は、県発注の火山噴火緊急減災対策・霧島山工区や道路整備(交付金)0県債田口工区などを請け負い、日ごろから地域貢献活動に取り組んでいる。

吉村社長は「玄関口である同駅に帰省する人や訪れる観光客にきれいな川をきれいに見て喜んでもらいたい」と思い清掃作業を行うこととなった。今後も地域に根差し、喜ばれる活動をしていきたい」と話した。



高校生ものづくりコンテスト溶接部門

3校5人が九州へ

第21回高校生ものづくりコンテスト県大会の溶接部門に関する結果がこのほど発表された。薩南工業高校が団体と個人(男子)の部で最優秀賞を受賞。個人(女子)の部では、頌娃高校がトップに輝いた。

県大会は6月17日、霧島市の県工業技術センターで実施。選手らは中板2枚(呼び厚さ9mmのSS400材)を用いて開先加工や溶接作業を行い、持参する工具や作業中の安全性、溶接部の外観などが審査された。

なお、九州大会は20日、大分県の会場で開催予定。3校5人の生徒が出場する。競技結果は次の通り。

- 【団体】最優秀賞 米倉礼悟 鶴本望暎 内之宮巧昌 (薩南工業3年)
- ▽優秀賞 大谷翔太 中村巧真 倉津智 (鹿児島工業3年)
- ▽優良賞 花牟禮龍我 長谷川樹 桂原志成 (曾於2年)
- 【個人・男子】最優秀賞 米倉礼悟▽優秀賞 内之宮巧昌 田畑昂 (奄美3年)
- ▽優良賞 大谷翔太 岩野聖也 (曾於2年)
- 前村祐太 (薩南工業3年)
- 【個人・女子】最優秀賞 山王ひかり (頌娃2年)